

【ねがいはましては】

令和5年2月8日

KYOWA SCHOOL

第388号

「反発する勇氣」

2023年1月19日付の読売新聞に「教育ルネサンス」という特集欄がありました。教育評論家の尾木直樹（尾木ママ）さんでした。題は『生徒は変わる』

その記事の一部です。

* 「バンカラ」→言動や振る舞いが荒々しいこと

滋賀県立の進学校の受験に失敗し、入ったのはバンカラの私立高でした。生徒を蹴る体育教師に反発して、授業をボイコット。赤点をつけられて進級できず、1年生を2回経験しました。父の転勤で編入した高松市の高校では、友達が欠席した時、同級生が「テストの順位が一つ上がる」と喜ぶ姿にがくぜん。暴力で生徒を管理する教師、テストの点数だけで評価する学校に強い不信感を持ちましたね。

独特な語り口で、よくTVに出られるのでご存じかと思います。私はこの部分を読んだだけで尾木さんに対する印象が今までとガラリと変わりました。そうだったんだ、高校1年生を2回するほど感情を表に出す性格の方だったんだ。

どう考えても、誰が考えても理が通らない・・・だから思ったことを正面からぶつける・・・。その結果、たとえ留年になってもそれを堂々と受け入れる。その尾木さんの勇氣に心の中で『ヤッター！』両手をあげていました。

私も今の教育制度に多くの矛盾を感じながら歩んできました。常に子どもたちの前では、その矛盾をかかげ、そこから生まれる子どもたちの反応を『学校病』と言い続けております。それに対峙する私の代表的な言葉が「後悔が残らず精一杯に取り組んだのであればそれが本当の100点」です。

Aさんは、すでに前もってそのテストの単元は学習済み、ササッと解き、かかった時間は制限時間の約半分。あとはボーッと。字はかなり雑。当然結果は100点。Bさんは精一杯に取り組みながらもできたのは約半分。しかも選択問題では、わからないところは選択せず。結果は50点。しかし字はかなり丁寧です。特にひらがなは書写をしているような「とめ」「はね」「おさえ」がしっかりできています。

今の制度の中では、「合えばいい」「できればいい」が当たり前であり、当然点数がその子の評価になります。数字というものはシビアです。点数を見ただけではその子の「ひとがら」まで知ることはできないのですが・・・。当然その点数に最も心を揺さぶられるのが多くのお母さん、そしてお父さんです。

私は後者のBさんの応援団長です。いつでも字が丁寧・・・なぜ？ その子は字の本来の目的をしっかりと理解しているからです。『文字』は相手に自分を伝える大切な具体物です。自分だけが読めればいいものではないはず。世の中に多くある活字は印刷文字ですが、テストではそれを読み取る採点者が存在します。その方に不安なくしっかりと読んでいただける文字こそ『本物の文字』です。Bさんはそのことを一番にお母さんお父さんから教わりました。

「いいかい、字はね、読んでいただくためにあるものなんだよ。相手に失礼になるような字は書いてはいけないんだ。どのような字を書くかは自分で考えるんだよ。」

その子は時間をかけ練習し、やがて自らが思う納得の字をテストでも作文でも書くようになりました。その中に他の子と全く違う感情がありました。それが「褒められたいから」という感情です。それが『全くありません』でした。

多くの子どもたちは常に「褒められたい」「叱られたくない」この二つを引っ提げ生活しています。学校で使うのが「叱られないようにふるまう」ということです。ですから字についてはテストで「丸がついていればそれでよし」になります。「こんな汚い字でも丸だ、じゃーこれからもこれでイコー！」になります。つまり判断の基準が常に『他』になります。この『他人の反応』を言い換えると『人を見る』になります。例は次の通りです。授業中、少しのおしゃべりでも強くしかってくる先生のとときは静かに授業を受けます。しかし、どんなにしゃべっても叱らない先生の時は、授業はわざわざしたままです。目の前の方・・・ご経験豊かなはず。私もそのようにして学校生活をおくっていました。

子どもたちは学校へ入った瞬間からその『訓練』を重ねていきます。1年生になったばかりの時に、「廊下は走ってはけませんよ」と、先生から言われながら皆走っていると、「そうか、走っていいんだ」となります。しかし先生が近くにいるとなぜかほとんどの子が「歩く」。

「みんながやっているんだからいいんだ」という法律の誕生です。その集大成が「いじめ」だと私は思っています。

何が良くて何が悪いか、他から教わることなく自分自身で決めながら生活すること。なぜそのような判断に至ったかじっくりと考えること。そのことをBさんはご両親から教わりました。だからテストの際も選択問題でわからないときは選びません。なぜならそれが正しい行為だからです。今の学校教育ではそれが暗黙の了解として「わからなくても選んでいいよ」になっています。さて、後者の子は「いじめ」をするような子に見えますか。

教育とは「自らの意思で正しいことを判断する力を育てあげること」です。尾木さんが高校でとられた行動、すばらしい行動だと思いました。勇氣をいただきました。私も同様、子どもたちへ言い続けます。

「何が良くて何が悪いかは自分がきめること、その力を育もうね」

『テストの点数だけで評価する学校・親・社会』が少しでも減るようにこれからも歩み続けます。